

氏名	林 韓 燮
学位の種類	博士（美術）
学位記番号	博美第3号
学位授与年月日	平成24年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
題目	論文題目 住居空間の比較による家具デザインの研究 — 日本と韓国の伝統的な要素を中心に —
	作品題目 「和室に対応できる家具デザインの提案」 ・ WAVE1（収納家具） ・ WAVE2（収納家具） ・ LOW CHAIR1（椅子） ・ LOW CHAIR2（椅子）
審査委員	主査 教授 長谷高史 副査 教授 中島 聡 副査 教授 熊田 由美子

1 学位論文の要旨

日本と韓国における現代の住居空間は、各国の伝統文化を継承しながらも欧米の影響を受け、様式化された空間であると言われる。しかしその住居空間は各国の伝統という概念に沿って変化し、欧米化を受け入れたのであろうか。また欧米化の流れにより異質的な要素が混在していないだろうか。これらの疑問から、現代の生活様式と住居空間および欧米様式との関係について、本研究を進めていく。

住居の歴史はその国の地域的な伝統性を反映し、生活習慣としても顕著に表れている。したがって本研究は、住居空間と生活様式の変遷と現状との比較を行うことにより、近未来の住居のあり方や営まれる生活習慣の変容を家具デザインで提案する。家具は住居空間と密接な相互関係を持ち、補完し合うものである。比較考察を目的とした調査により、伝統住居から近代、そして現代への住居形態の変遷から確認された問題点を明らかにし、現代の住居空間に適する家具デザインを提案することが重要である。

本研究は、現代の住居空間における新たな家具デザインを提案することが主な研究目的であり、その背景として、理論的な構築と、家具デザインの指針をより明確にすることが本稿の目的である。論文の基本構成として第1章～第4章までは歴史的な考察と年代間の比較考察、そして第5章では現代和室に対応する家具デザインの提案、及びその展開を記述している。特に第5章では、第4章で行った比較考察からデザインの諸要件を定め、これらを中心に家具デザインの提案、作品制作を行い、和室における生活様相を新しい視点から具現化する家具デザインの研究プロセスを記述した。

具体的に第1章では、研究の目的、範囲、疑問点、着目点、そして先行研究の検討結果を述べている。第2章では、調査範囲の始まりである日本の江戸時代から、近代文明の開化期、そして現代に至るまでの住居空間の変化、さらにその変化から現出した家具のあり方を探査している。第3章では、韓国における住居空間の歴史的な変遷を中心に

調査を実施し、両国の比較考察を行っている。この考察は両国の独自性を探るとともに、近未来における新たな家具デザインの提案及び展開を目指す本研究において、その背景を構築する目的で論じている。特に近代文明導入期の調査内容は、両国の地域性を背景とした伝統的な生活習慣に着目し、歴史的な部分から考察を行い、独自性を探っている。また現在までの日本と韓国の住居空間に欧米様式の住居や家具が導入されたことによって、それまで独自に発展した日本と韓国の地域性や伝統性の流れと異なる別の傾向が生じたのではないのかという仮説を前提として、史的な考察を行った。これらの作業から、本研究が指向する両国の地域性と伝統性、そして造形性と独創性を持つ家具デザインの必要緒条件を明確化した。

第4章では、前章で行った住居空間の史的視座からの比較考察を進めた。比較については、韓国と日本における住居の平面構成と、生活空間と家具を中心とした地域の伝統性とその意識について比較検証を行った。両国における地域の伝統性は何か、日常生活の中、いかなる意識を持っているのかを探り、日本と韓国の共通と相違をまとめていった。そして本章から比較考察を、以降の作品提案と展開にあたる諸要素としてまとめた。特に「伝統性」といったキーワードを現代家具のデザインに活かすことは、現代的な造形性、室内空間での利便性、そして近未来に対する現在という、新しい伝統性の可能性が予見される。

第5章では、和室に対応する家具デザインの提案及び展開について記述している。室内家具は、人間と空間をつなぐ核心的な要素であり、空間にどのような家具が置かれるかによって空間の用途や性格が規定される。また、本研究で提案する家具デザインは、生活空間の中での伝統性・地域文化の連続性を重視している。現代の住居空間は、過去の伝統性を現代の生活様式に対応させながら再構成されているが、より高いレベルで適合させるためには、独自性を持つ家具として、和室との関係を改めて検証しなければならない。急速な欧米様式の流入により変質した独自性や文化性は、本研究によって再構成の必要性を認識し、これらの比較考察からより明確な家具デザインの正しい方向性に導かれなければならない。これが本研究の最終目的である。

空間と家具・伝統と変化・人間と自然などの有機的な相互作用は、生活文化の発展において欠かせない必然必須の関係である。この関係性を重視したデザイン研究は、生活文化に大きく寄与する家具デザインの新たな方向と提案を可能とするものであり、今後様々な領域での環境デザインでも同様の視点で提案されなければならない。

本研究は伝統的・文化的・独創的なデザイン理念を提示すると同時に、近未来の家具デザインの可能性を試みる研究でもある。提案する家具は長く使い続けることを前提とし、地球環境にも十分配慮できる方法をも含めたデザイン理念の研究としても位置づけることができた。また本研究から導出された家具デザインは、新しい文化への対応やライフスタイルをより幅広く展開することが可能であることが立証された。

2 学位論文審査の要旨

本研究科後期課程開設科目取得単位数と成績及び博士学位作品及び論文審査に基づき、林韓燮は博士(美術)の学位に相応しいと審査員全員の一致により結論した。

個々の項目についての審査結果は以下の通りであった。

林は、本研究科博士後期課程開設科目を課程修了に必要な単位を取得した。各科目の成績は博士の学位に十分相応しいものであった。

博士論文「住居空間の比較による家具デザイン研究」は、日韓の住居空間の比較研究を史的考察、フィールド調査、文献調査を踏まえて、座の生活空間、生活様相に着目し、家具のあり方に視点を置き、考察を深めた。和と韓の座様式の違いを生活空間、住居構造等から明らかにし、新たな生活様式となる座空間のあり方を示した。

比較研究では文献による史的考察だけでなく、事例調査を含めて多くのフィールド調査を重ね、その特徴や特質、傾向などを確認してきた。このことから生活様相や使用される家具のあり方を示し、近未来の新たな座空間での家具のあり方を示した。

また、論文で考察された家具のあり方を作品制作として展開し、収納家具のシリーズ WAVE1、WAVE2、低座椅子のシリーズ LOW CHAIR1、LOW CHAIR2 をデザイン作品とした。論文のコンセプトに裏づけされたデザイン作品群は、新たな様式への提案を暗示させるような新鮮さ、斬新さ、またオリジナリティーある作品であり高い評価をあたえられる。

作品

WAVE1、2：

収納家具として座空間での使用を前提に、視線や機能からその大きさを検討し、住まいの基本モジュールを前提に 910×1820 の畳の基本寸法を家具モジュールに当てはめたデザイン展開をした。収納の扉部には意匠としての波形をモチーフとして繊細なデザインを施し、新たな様式を感じさせるものとした。また、家具にはあまり使用されていないホワイトアッシュ材に取組み見事に完成させた。

LOW CHAIR1、2：

座空間を和のテイストを基調に高齢者にも使い易い寸法でのデザイン展開を行い、詳細部の配慮も含めて新たな造形を提案している。低座椅子の事例は今までにも多くあるが、数多くの試作製作から独特な形を創意し、オリジナリティーがあり詳細部の配慮も行き届いた秀逸なデザインとなっている。また、椅子にはあまり使用しないホワイトアッシュ材に取組み見事に完成させた。

以上のように論文及び作品は博士の基準を超える実力を持つことを示した。

公開審査において的確に論文及び作品を説明し、多くの質問にも的確に回答し、その論文及び作品の質の高さを示した。このことから博士の学位を与えるのに十分であると結論した。